

日 時：平成25年10月15日（火）
場 所：邑南町立石見中学校 音楽室
指導者：教諭 服部優子

1 題材名 言葉の抑揚やリズムを生かして旋律をつくろう～自己のイメージとかかわらせて～

2 題材の目標

五・七・五の川柳に用いた言葉の抑揚やリズムに関心をもち、4つの音による旋律を知覚し、それによって生み出される特質や雰囲気を感じ取る活動を通して、言葉の抑揚やリズムの特徴を生かし、自己のイメージと音楽を形づくっている要素とかかわらせながら、旋律を創作して表現する能力を育てる。

3 題材設定の理由

(1) 題材について

音楽は、その音楽固有の表情、雰囲気、気分や味わいを醸し出している。これが曲想であり、一人一人が自己のイメージや感情を伴って、音楽との相互作用の中で感じ取ることになる。曲想を感じ取りながら、それを音楽の構造とのかかわりにおいて再度とらえ直すといった活動を繰り返すことによって、生徒の感じ取った内容が質的に深まり、イメージや感情も広がり、豊かになる。現行の学習指導要領のA表現(3)ア、イそれぞれの指導事項では「自己のイメージ」や「表現したいイメージ」などを〔共通事項〕とかかわらせながら、音を音楽へと構成することが求められている。

本題材は、修学旅行での思い出を五・七・五の川柳で表し、その抑揚やリズム、4つの音と音楽のイメージとのつながりなどを知覚・感受する活動を通して、自己のイメージと音楽を形づくっている要素とかかわらせながら、五・七・五の川柳に旋律をつくって表現する能力を育てることをねらいとしている。

創作活動では、音を音楽へと構成していく過程の中で、その核となる素材選択が生徒の関心・意欲を左右すると考える。そこで本題材では、9月下旬に行われた修学旅行での各自の思い出を五・七・五にまとめ、その言葉の抑揚やリズムを考えたり、4つの音による雰囲気を感じ取ったりして旋律をつくることで、創作活動への関心・意欲を喚起したい。

(2) 生徒について

本学級は、男子11名、女子11名（そのうち特別支援学級在籍1名）の22名で構成されている。すべての音楽活動には真面目に取り組むことができるが、のびやかな音楽表現が十分にできるとは言えない。特別支援学級の女子生徒は、歌うことや音楽鑑賞を好み、それぞれの音楽活動に対して失敗を恐れずに取り組むことができる。また経験によって積み重ねたことは少しずつ学習に生かすことができている。しかし活動に集中するあまり、周囲とのかかわりがうまくいかない場面がみられる。

創作は1年生の時に、既存の楽曲を用いてその一部を「続く感じ」や「終わる感じ」といった意図で旋律をつくっている。その活動では、音のつながり方に注目することで順次進行や簡易な跳躍進行を用いながらそれぞれが達成感のある創作活動を行うことができた。本題材では自らが体験した様子を素材にすることによって、自分のイメージを大切にし、言葉の抑揚、リズムを生かしながら旋律の創作をする。この学習が今後の創作活動への興味・関心を高めるとともに、歌唱、器楽、鑑賞にもつながるようにしたいと考える。

(3) 指導にあたって

本題材は、身近な言葉や、童謡に使われている言葉の抑揚に着目をさせて、日本語に含まれた抑揚やリズムと旋律との関係を手掛かりにして旋律を創作させたいと考える。その際に、視覚的にも確認できるように、線譜で言葉と旋律の関わりを表すようにする。また読譜や記譜への抵抗感を少なくするため、視覚的にとらえやすいワークシートを工夫したい。具体的にはリズムや音高などの記譜は帯譜とし、弦の番号が書き込めるようにすることで、旋律の流れをイメージさせたい。創作過程において、個人差が予想されることから、表現の工夫について他者の作品を通じてヒントを得るなどしながら、スモールステップで学習を展開していくことを考えている。

全体的な支援として、ICT機器を用いて弦の弾き方など手元が大きく見えるようにしてわかりやすくしたい。そして、各時間のはじめに、本時の見通しをもたせたり、モデルを示しながらデモンストレーショ

ンをしてみせたりすることで、課題解決の支援としたい。特別支援学級の生徒に対しては、個別指導を通じて活動の充実を図るとともに、活動の進んだ生徒からの助言をもらいながら、意欲的に取り組めるように配慮していきたい。

第一次は、言葉の抑揚について知り、川柳を考え言葉に抑揚とその抑揚を参考にしがらリズムをつける。童謡「たきび」を用い抑揚と旋律の関係を知覚・感受し理解させる。そして、指導者のつくった川柳「きんかくじ きらきらびかびかまぶしいな」を例示し、具体的に抑揚やリズムを示すことで、旋律づくりに対するイメージと学習への見通しをもたせたい。その際に視覚的に確認できるように、線譜で言葉と抑揚と旋律のかかわりを表すようにする。また、なぜこのようなリズムにしたかも述べ、思いや意図をもって旋律づくりに取り組むことを意識させたい。

第二次では、言葉の抑揚やリズムを参考にしながら4つの音を手掛かりにして旋律をつくる。旋律づくりにおいては、生徒が容易に音のつながりを試すことができるように、平調子に使われている4つの音（D♭、E♭、G、A、）を使って学習を進める。ここでの例示は、思いや意図をもって旋律をつくることのできるようにするために、旋律とイメージとどうかかわらせたかを丁寧に説明して、音の高さを工夫しながら旋律をつくる時の手掛かりになるようにする。また、ペアで互いの作品を聴き合う時には、なぜこの音にしたのかななどを伝えあい、互いの思いや意図を感じ取り、自分の作品のさらなる工夫に生かすことのできるようにする。発表ではどんなイメージとかかわらせて音の高さやリズムを工夫し、旋律をつくったかななどを発表し、演奏をして全体で共有する。

本時は第二次の1時間目である。はじめに爪の付け方、音の出し方、座り方を確認し、正しく音がだせるようにする。次に例示をおこない、なぜ「このような旋律にしたのか」という点を強調して説明する。そして川柳に旋律をつける時には見通しをもつために、工夫の手立てを4つ示す。終末では、抑揚やリズムをイメージとかかわらせて旋律をつくっている生徒を発表させ、聴き手に、そのよさや面白さについて発言させて、指導者が価値づけをする。このような活動を通して、思いや意図を音でためしながら、自分にしかできない旋律をつくっていく楽しさやおもしろさを感じながら創作活動ができるようにする。

題材全体を通して、自分の思いを込めてつくった旋律を表現することで、音楽をつくる喜びを味わわせるとともにより表現豊かに思いや意図をもって表現活動に取り組めるようにしていきたい。

4 学習指導要領とのかかわり

(1) 本題材で指導する事項

A表現：創作	
○	ア 言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくること。
	イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくること。

(2) 取り扱う主な〔共通事項〕

ア	音色	/
	リズム	言葉の抑揚を生かしたリズム
	速度	/
	旋律	音と音のつながりを生かした旋律
	テクスチャ	/
	強弱	/
	形式	/
	構成	/
イ	用語や記号	/

5 教材

指導者のつくった作品（五・七・五の川柳：言葉の抑揚、リズム、音高が示されたもの）
たきび（作詞：巽 聖歌、作曲：渡辺 茂）

6 評価規準

(1) 領域、分野と評価の観点との関連

評価の観点 領域・分野	ア) 音楽への 関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の創意工夫	ウ) 音楽表現の技能	エ) 鑑賞の能力
A・歌唱				
A・器楽				
A・創作	○	○	○	
B・鑑賞				

(2) 題材の評価規準

ア) 音楽への関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の創意工夫	ウ) 音楽表現の技能
①言葉の抑揚に関心を持ち、それらを生かして音楽表現を工夫して旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	①言葉の抑揚を生かしたリズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら音楽表現を工夫している。 ②知覚・感受したことをもとに、4つの音で構成する旋律を工夫し、どのように旋律をつくるかについて、思いや意図をもってしている。	①言葉の抑揚やリズムなどの特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能（音のつながり方、記譜の仕方）を身に付けて旋律をつくっている。

7 指導と評価計画

時	ねらい	・主な学習活動	[共通事項]	評価	評価方法
1	言葉の抑揚に関心を持ち、それらを生かして音楽表現を工夫して旋律をつくる学習に主体的に取り組むことができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃使っている言葉には抑揚があることを知る。 ・はし（橋）とはし（箸）など身近で短い言葉を示し言葉の抑揚と意味について想起する。 ・唱歌「たきび」を歌い、詩を図示し、言葉の抑揚は童謡や唱歌の旋律に使われていることを知る。 ・指導者がつくった五・七・五の川柳を紹介し言葉の抑揚を示す。 ・京都の思い出を五・七・五の詩に表し、言葉に抑揚をつける。 ・学習の振り返りをする。 	旋律 リズム	ア①	ワークシート 発言の内容
2	言葉の抑揚を生かしたリズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、リズムを手掛かりにして音楽表現を工夫することができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習内容を確認する。 ・指導者がつくった五・七・五の川柳にリズムをつけたものを例示し、なぜこのようなリズムをつけたか考えや思いを説明する。 ・自分のつくった五・七・五の川柳にリズムをつける。 ・箏の爪の付け方や音の出し方、座り方を知る。 ・学習の振り返りをする。 		イ①	ワークシート 活動の様子の観察

3 (本時)	知覚・感受したことをもとに、4つの音で構成する旋律を工夫し、どのように旋律をつくるかについて、思いや意図をもって音楽表現を工夫することができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習内容を確認する。 ・箏の爪の付け方、音の出し方、座り方について確認をする。 ・指導者のつくった五・七・五の川柳（抑揚とリズムがついたもの）に音高をつけたものを例示する。 ・自分の五・七・五の川柳に音高を工夫しながら旋律をつくる。 ・友達のつくった旋律を聴いて感じたことを共有する。 ・学習の振り返りをする。 	旋律	リズム	イ②	ワークシート 活動の様子の観察 発言の内容
4	言葉の抑揚やリズムなどの特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能（音のつながり方、記譜の仕方）を身に付けて旋律をつくることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習内容を確認する。 ・ペアでお互いに自分のつくった旋律を発表し合う。 ・互いに感じ取ったことや気づいたことを伝え合う。 ・全体で共有するときには、相手がどんなイメージでつくったか、工夫したところなどを含めて相手の作品を紹介する。 ・学習の振り返りをする。 	↓	↓	ウ①	ワークシート 活動の様子の観察 発言の内容

8 本時の学習（本時3／4）

(1) ねらい

知覚・感受したことをもとに、4つの音で構成する旋律を工夫し、どのように旋律をつくるかについて、思いや意図をもって音楽表現を工夫することができるようにする。

(2) 展開

	○学習活動 ◇予想される生徒の反応	教師の支援	評価規準と方法
導入	<p>○前時の確認をする</p> <p>○本時のめあてと授業の流れを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>学習のめあて</p> <p>4つの音を使って旋律をつくろう！</p> <p>◇何の音を使うのだろう</p> <p>◇どうやってつくるのだろう</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>授業の流れ</p> <p>①4つの音を弾きながら確かめよう！</p> <p>②先生が実際につくった旋律を聴いてみよう。</p> <p>③実際に旋律をつくってみよう。</p> <p>④友達がつくった旋律を聴いてみよう。</p> <p>⑤今日の授業で「わかったこと」を発表してみよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・調弦等は事前に指導者が済ませておき、スムーズに学習活動に入ることができるようにする。 ・「めあて」と「授業の流れ」を書いたものを提示することで視覚的な支援に配慮する。 	

展 開	<p>● 4つの音を弾いて確かめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者による範奏 ↓ ・生徒が各自で音を確認する。 <p>○指導者のつくった旋律を聴く</p> <p>○実際に旋律をつくってみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抑揚とリズムをつけた自分の川柳に旋律をつけるための見通しをもつ。 ↓ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>旋律をつくるための手がかり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抑揚を元に音の高さを工夫しよう。 ・リズムを元に音の高さを工夫しよう。 ・抑揚とリズムをもとに音の高さを工夫しよう。 ・抑揚とリズムを生かしながらイメージとかがわらせて音の高さを工夫しよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に音を出しながら、イメージとかがわらせて旋律をつくる。 <p>○友達がつくった旋律を聴く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つくる上で工夫した点やイメージについて述べて発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者が実際に音を出して聴かせる時は、範奏の手元を実物投影機で映す。 ・4つの音を上下それぞれから弾いてみることで、音の高低と弦の並びを認識させる。 ・どのように旋律をつくったかについて、「言葉の抑揚」と「自身のイメージ」をかかわらせながら工夫したことを述べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・黒板に掲示し活動中も見ることができるよう視覚的支援をおこなう。 <ul style="list-style-type: none"> ・気にかかる生徒については、適切な支援をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・抑揚とリズムを生かしている旋律と工夫を加えている生徒の作品を紹介する。(楽譜は実物投影機で映す) ・発表後はそのよさや面白さについて発言させたり、指導者が価値付けをしたりする。 	イ② ワークシート 活動の様子を観察 発言の内容
ま と め	<p>○本時の取り組みを振り返って「わかったこと」を発表する。</p> <p>○次時への見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律をつくっていく中での、自分自身の思いや友達の発言、自分や友達がつくった旋律から気づいたことをもとに考えさせる。 	

(3) 本時の評価

【音楽表現の創意工夫】 イ②

知覚・感受したことをもとに、4つの音で構成する旋律を工夫し、どのように旋律をつくるかについて、思いや意図をもっている。

生徒の姿 評価の観点	十分満足できると 判断される生徒の具体例	おおむね満足できると 判断される生徒の具体例	努力を要すると 判断される生徒の具体例
音楽表現の 創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・金閣寺がキラキラ光っている様子を表すために言葉の抑揚を生かし2つの音のつながりを前後の小節とのつながりを考えて旋律をつくっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・金閣寺がキラキラ光っている様子を表すために言葉の抑揚をとらえて2つの音のつながりを考えてながら試しながら旋律をつくっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの音から始めたらよいか迷っている →言葉の抑揚で示した線譜を手掛かりにして考えさせる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の美に感動した気持ちの高まりを表すために、同じ高さの音をつなぎながら一文字ずつ長い音でつないで工夫して旋律をつくっている。 ・「格子戸」の言葉を強調するために終わりの旋律の終わりの音を前後の小節のつながりを考えて跳躍進行で表し、音の高さを工夫して旋律をつくっている。 ・仁王像の勇ましくずっしりとした感じを表すために低い音を使って拍を長くして言葉の抑揚を生かして、旋律を工夫してつくっている。 ・清水寺へ行く坂道を上ると息が切れて苦しい様子を表すために休符を言葉の間に入れて記譜をしながら旋律をつくっている。 ・二条城を見終わったときの満足感を表すために、前的小節とのつながりを考えて最後の音を終わる感じにして旋律をつくっている。 ・仁王像を下から見上げる感じを表すために一番低い音から始まり、一番高い音が頂点になるように4つの音を使って音のつながりを工夫して旋律をつくっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の美に感動した気持ちの高まりを表すために、同じ高さの音をつないで一文字ずつを長くのばして試しながら旋律をつくっている。 ・「格子戸」の言葉を強調するために終わりの旋律の終わりの音を跳躍進行で表して試しながら旋律をつくっている。 ・仁王像の勇ましくずっしりとした感じを表すために低い音を使って拍を長くして言葉の抑揚をとらえ、試しながら旋律をつくっている。 ・清水寺へ行く坂道を上ると息が切れて苦しい様子を表すために休符を言葉の間に入れて試しながら旋律をつくっている。 ・二条城を見終わったときの満足感を表すために最後の音を終わる感じにして試しながら旋律をつくっている。 ・仁王像を下から見上げる感じを表すために一番低い音から一番高い音が頂点になるように試しながら旋律をつくっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何となく音をあてはめている。 →なぜこの音をつかっているのか聞き、理由を受けとめながらやりとりをして、生徒自身の旋律に対する思いや意図を深めさせる。 ・特別支援学級の生徒がめあてを見失って活動をしている。 →声をかけて創作意図を確認する。
--	--	--	---

言葉の抑揚を生かして旋律をつくろう

2年組 番名前

曲名

句の縦書きを
掲載する。
(例)
まぶしいな
さらさらひかる
まんか〜じ

ことばと 抑揚														どんなイメージ	
リズムと ことば															
弦の番号															
このような旋律にした理由															
ことばと 抑揚														どんなイメージ	
リズムと ことば															
弦の番号															
このような旋律にした理由															
ことばと 抑揚														どんなイメージ	
リズムと ことば															
弦の番号															
このような旋律にした理由															